

2 学年通信 「キセキ」



岩手県立盛岡第三高等学校 2 学年

令和 2 年 8 月 2 6 日(水) 発行 Vol.27



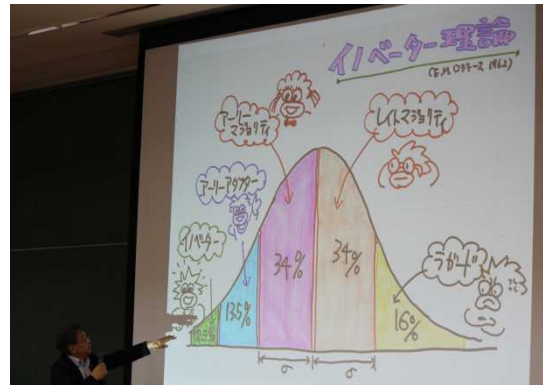
三高マスコット「トナンくん」

今回は 2 学年進路講演会(7/23)について紹介します。

2 学年進路講演会

7 月 23 日(木)に盛岡中央高校附属中学校副校長の^{しもまちひさお}下町壽男先生を講師に迎え、2 学年進路講演会が行われました。先生は以前、本校の副校長として勤務のご経験があり、昨年も「Ikigai を意識したキャリアデザインを」という演題で講演をしていただいています。*昨年の 1 学年通信 Vol.9 を参照ください。

今年度は「新しい日常を創造するために必要な視点・見識とは」という演題で約 90 分の講演をしていただきました。否定の否定は強い肯定であるというお話から始まり、新しい日常とは何かを、生徒自らが考え、自分なりの答えを導き出せるよう、未来の学校を題材としたワークを行っていただいたり、新しい日常を創るためのキーワードとして、「長寿社会とテクノロジー」、「習慣の力」、「幸せに生きる」の 3 つのテーマでお話していただきました。一見するとマイナスに思える事も、視点を変えると実はプラスであることが多々あります。みなさんには物事を批判的、多角的に見る習慣を身に付けて欲しいです。



進路講演会の感想・意見 (生徒感想から)

マイナスとマイナスはプラスだということは分かるけど、強いプラスになるとは考えていなかった。数学的に考えるとありえないことだけど、たしかに否定の意見を聞いてから、それに対して否定して肯定の意見を述べる方が多様性がひろがってより強い肯定に繋がると感じた。26 枚の絵からその裏に隠された背景を読み取ってグループで考えを出し合ったが、自分には全く思いつかなかった考えが沢山あって面白かった。このようなことをするために学校があるんだと感じた。また、自己形成のためにはより良い人間関係を持っているかにかかっているというのが確かにそうだと深く共感した。うわべだけで仲良くして、お互いに注意しあえないような希薄な関係ではいけないと感じた。1 組

新しい日常をテーマにした今回の講演の中で、最もなるほどと思ったのは、グループ毎の「メタファワーク」でした。たった 3 組の発表だったのに、全く違う意見を持っていることにとっても驚きました。食べ物に例えているチームは面白いなと思いました。歯車に例えているチームには感心してしまいました。「一人でも違う動きをしたら全体が成り立たない」、つまり社会においても必要のない構成員などいないはずなのです。最近ニュースでも、自殺をする人が多いように思います。自分はいなくてもよい存在だと思っただけでは足りないし、そう思う人が少なくなって欲しいと願っています。そして、生きているからには、自分が社会の重要な一部分になれるような行いをしていくべきだと感じました。2 組

今日の講演会を聞いて、あらためて人とのコミュニケーションは大切な事だなと思いました。お互いに会話を通して自分の意見を発信していくことは、より良い組織を作っていくために必要であって、このことは部活動にも当てはまるなと思いました。また、メタファワークにおいても、自分と同じ絵を選んでいるけど、自分とは違う理由だったり、人によって観点が違って、これが多様性の一つであるということに気がつくことができました。多角的に物事を捉えることによって、新しい一面を見つけることができるということも、「高齢化」の例を通して分かったので、自分自身の問題を見つけたとき、参考にしていきたいです。男女関係なく、この人は毎日生き生きとしていて素敵だなと思う時があるのですが、そう思われるような人たちは自身の弱さと上手に付き合っていることが分かりました。私はまだ、壁にぶつかった時に一人で抱え込んでしまうことがあります。そんな時こそ、信頼できる友人に相談または、話を聞いてもらい、向き合うことが必要なのだと分かりました。相手との信頼関係を築くためにも、普段から挨拶などコミュニケーションを大切にして良い繋がりを持つようにしていきたいです。3 組

今日の講演会で一番印象に残ったのは習慣についてです。「掃除は学校と生徒の約束だからやらなくてはいけないものではなく、習慣をつくり、生活を整え、人柄を作り出すために行うものだ」というお話を聞いて、2 学年の廊下に貼ってある「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」という言葉思い出しました。習慣を変え、人柄を変化させることで、人間関係が変わったり、自分と向き合えるようになり、最終的に幸せに繋がります。習慣をつくりだすのは大変かもしれないが、あきらめずに継続し、自分を向上させたり、相手との関係をより良くしていきたいと思いました。また、下町先生は「世界全体が幸福にならない→個人の幸福はありえない。すなわち個人が幸せ→世界も幸せ」とおっしゃっていました。これを聞いて「世界の幸福なんてスケールが大きい。自分一人ではどうしようもないし、関係ない。」と思うのではなく、見方を変えることが大切だと分かりました。4 組

今日の講演では、これからの生活で心がけていった方が良い事は何かを考えました。私は、今まで誰かが提案した事を否定せずに肯定していたし、本当にその案が良いものだと思っていました。ですが、肯定する事も大切だけど相手や周りのためには否定する事も必要だと学びました。これからは私も下町先生がおっしゃっていたように、自分の中に一つ「くだらん君」をおこうと思います。また、AIの人間化より、人間の機械化の方が怖い、という言葉にとても納得したし、人間の機械化を想像して怖くなりました。そして、人間は誰しも自分の中に悪魔を飼っているというお話を聞いて、現代文で習った「山月記」に似ているなあと感じました。今も昔も教える事は変わらないのかもしれませんが。5組

私は生きていくうえでの目標として「笑顔」を掲げている。これは、自分が小学校6年生からずっと変わっていない。無理して笑う必要はないけれど、人の笑顔を見て、元気になれた自分がいたし、少しでも笑っていると、本当に笑顔になれたことが多かった。そのことをチョコバーから言いたかったのかなと思ったし、これからも「笑顔」を忘れずに生きていこうと思った。「否定の否定は強い肯定」というワードについては、ディベートを通じて学んだことでもあるなと思った。私は反駁^{はんぱく}の係だったので、とくに同感できる部分があった。「良い意味で批判的に考える」は、常に自問自答しておける自分でありたいなと思った。そうすることによって、「否定の否定は強い肯定」というものにも結びつくのではと思いました。6組

二年生に進級し、「自分にはやる気が無いんじゃないか」、「夢を叶えていく思いが揺らいできたのか」といくら考えても答えが見つからず、暗闇に迷ってしまったのかと不安に押し潰されそうだった。しかし、講演後、自分は熱意を失ってしまったのではなく、日々の目の前にある物事に埋もらせてしまっていたのだと分かった。一年生の時、失敗や苦手に尻込みせず、何事も全力でやりきれたのは、高校受験の時、自分は何を学びたくて、何を叶えたくて三高に入学したいのかを自分と時間をかけて向き合い、自分なりの答えを出したからだ気付いた。だからこそ、夏休みは日々の雑踏に混じり込んでいる自分の熱意を掘り起こし、自分が叶えたい夢は何なのかをあらためて自分と対話する時間を作りたいと思う。7組



進路講演会で印象に残ったキーワードの一部（生徒感想から）

- 新しい日常。
- 月とガスタンク。
- PDCA×Happy Pepper。
- 自分の弱さに向き合う。
- 規則正しい人は美しい。
- フェルマーの最終定理。
- 心に一つの「くだらん君」を。
- 長寿社会は社会に恩恵をもたらす。
- 評判を確かにするのは自分の行動である。
- 多様性を理解する＝社会的弱者の視点を持つ。
- 1つの難問を解くプロセスで、様々な物事が発展する。
- 終わりが無いからこそ、習慣としてやり続けることに意味がある。
- みそあじ（身なり、掃除、挨拶、時間）。時を守り、場を清め、礼を正す。
- スマイルが幸せをつくる。笑顔1つはチョコバーの2000個分の効果がある。
- 世界は苦しみでいっぱいです。でも、それに打ち勝つことでも満ちあふれています。
- 何かを変えるときに大切なのは、一度立ち止まって疑問を持って見ること。
- 幸せとは闇を消すことではなく、闇と共存し、振り回されないことである。
- 習慣の力。習慣は人柄を創り出す。0→1にするためには習慣作りが必要。
- 本当に大切なことは、本当に大切なことを本当に大切なことにする。
- 肩書きに守られている人は悲しい。肩書きをとると、皆同じ価値。
- イノベーター理論。ラガードの存在。良い意味で批判的に考える。
- 否定の否定は肯定ではなく、強い肯定（マイマイはプラ）。
- 自分のブランディングは良い人間関係に大きく依存する。
- AIの人間化より、人間の機械化の方が恐ろしい。
- 主体的な集団はどんなことを話しても学ぶ。
- 個人が幸福になる→世界が幸福になる。
- 作られてからニーズができる。
- 結果・成果が全てではない。
- 次の一手をどうするか。
- OriHimeで不登校改善。
- 価値観を疑う。
- 長寿先進国。

学年通信バックナンバーはこちら→

